

1973年 夏休み北海道旅行①～道南・道央の旅

1973年7月12日(木)～15日(日)

【1973年7月12日(木)】

(1) 東北本線(仙台～青森)、函館本線(函館～俱知安)

1973年の春休みに九州旅行に行った友人の1人と夏休みに北海道旅行に行きました。当時の大学生の夏休みといえば、北海道旅行が定番だったように思います。日本全国の大学生が、リュックを背負って列車内を横歩きするところから「カニ族」と呼ばれ、国鉄の北海道均一周遊券を利用して旅をしていました。

私たちも同じように北海道均一周遊券を購入し、夏休みが始まる直ぐに出かけるためにルートの検討を行い、往復葉書でユースホステルなどの予約を行いました。運よく予約が取れた所もありましたが、半分位は駄目だったように記憶しています。予約が取れなかった所では、最悪の場合は駅で野宿することも考えていました。当時の仙台発の北海道均一周遊券について調べてみると、有効期間は13日間でした。旅行日程はそれ以内にする必要がありました。北海道を一周する計画を作ったところ全日程が16日間となつたため、有効期間が16日間の東京発着の周遊券を購入したのではないかと思います。

7月12日の深夜0時22分発の青森行き急行「八甲田」で仙台を出発しました。今回の旅行は2人だったので、空いていた席に2人一緒に座ることができました。車内でワンカップを飲みながらの旅が始まりました。夜行列車のため、外の風景が見られないのが残念でしたが、ワンカップを飲んで寝てしまったのではないかと思います。

青森に6時15分に到着し、青函連絡船に乗り換える際に先を争って走ったかどうかは覚えていません。連絡船には乗船名簿

<1973年7月12日>		
○仙台		
0:22 発		
東北本線		
(急行)八甲田[青森行] 5時間53分		
6:15 着		
○青森		
7:05 発		
青函連絡船		
八甲田丸[函館行] 3時間50分		
10:55 着		
○函館		
11:50 発		
函館本線		
(急行)宗谷[稚内行] 2時間59分		
14:49 着		
○俱知安		

東北本線ダイヤ①

(急行)八甲田	
仙 台	0:22
東 仙 台	↓
岩 切	↓
陸 前 山 王	↓
塩 釜	↓
松 島	↓
愛 宮	↓
品 井 沼	↓
鹿 島 台	↓
松 山 町	↓
小 牛 田	1:21
田 尻	↓
瀬 峰	↓
梅 ケ 沢	↓
新 田	↓
石 越	↓
油 島	↓
花 泉	↓
清 水 原	↓
有 壁	↓
一 ノ 関	2:04
山 ノ 目	↓
平 泉	↓
前 沢	↓
陸 中 折 居	↓
水 沢	2:24
金 ケ 崎	↓
六 原	↓
北 上	2:39
村 崎 野	↓
花 卷	2:52
二 枚 橋	↓
石 鳥 谷	↓
日 詰	↓
古 館	↓
矢 幅	↓
岩 手 飯 岡	↓
仙 北 町	↓
盛 岡	3:19

東北本線ダイヤ②

(急行) 八甲田		
盛岡	3:24	
厨川	↓	
滝沢	↓	
渋民	↓	
好摩	↓	
岩手川口	↓	
沼宮内	↓	
御堂	↓	
奥中山	↓	
小繫	↓	
小鳥谷	↓	
一戸	↓	
北福岡	↓	
斗米	↓	
金田一	↓	
目時	↓	
三戸	↓	
諏訪ノ平	↓	
剣吉	↓	
苦米地	↓	
北高岩	↓	
八戸	4:52	
陸奥市川	↓	
下田	↓	
向山	↓	
三沢	5:11	
小川原	↓	
上北町	↓	
乙供	↓	
千曳	↓	
野辺地	5:35	
狩場沢	↓	
清水川	↓	
小湊	↓	
西平内	↓	
浅虫	5:56	
野内	↓	
東青森	↓	
青森	6:15	

第2部で2019年に俱知安に降りた時、駅構内にあった観光案内所でユースホステルのことを聞いてみましたが、はるか昔のことと若い職員は当時のユースホステルがどこにあったかについて知りませんでした。



があったので、どこかで用紙を貰って名前や住所などを記入したように思います。

青函連絡船八甲田丸は青森を7時05分に出航し、函館までの3時間50分の船旅ですが、夏の連絡船は波もなく揺れはありませんでした。船内食堂の名物は海峡ラーメンだったと思いますが、それを食べたかどうかは覚えていません。連絡船は青森湾を出るのに結構時間がかかり、津軽海峡に出るとイルカが見られるということを聞いていたので甲板に上がって目を凝らしましたが、イルカを見た記憶はありません。暫くすると前方に函館山が見えてきて、函館に10時55分に到着しました。

函館からは11時50分発の稚内行き急行「宗谷」に乗車し、北海道の旅が始まりました。駒ヶ岳を見ながら函館本線を北上し、俱知安に14時49分に到着しました。この日は俱知安駅の近くにあったユースホステルに宿泊しましたが、乗車した列車のことやユースホステルのことは殆ど記憶に残っていません。



函館本線ダイヤ

急行 宗谷	
函館	11:50
五稜郭	↓
桔梗	↓
大中山	↓
七飯	↓
大沼	↓
大沼公園	12:13
赤井川	↓
駒ヶ岳	↓
(臨)姫川	↓
森	12:34
(臨)桂川	↓
石谷	↓
(臨)本石倉	↓
石倉	↓
落部	↓
野田生	↓
山越	↓
八雲	13:01
(臨)鶯ノ巣	↓
山崎	↓
黒岩	↓
(臨)北豊津	↓
国縫	↓
中ノ沢	↓
長万部	13:27
二股	↓
蕨岱	↓
黒松内	↓
熱郛	↓
上目名	↓
目名	↓
蘭越	↓
昆布	↓
ニセコ	↓
比羅夫	↓
俱知安	14:49

【1973年7月13日(金)】

(2) 函館本線(俱知安～余市、小樽～札幌)

この日は俱知安を8時06分発の小樽行の普通列車に乗りました。俱知安でその列車を待つ間に、駅の近くの踏切付近でSLの写真を何枚か撮影しました。羊蹄山を背景に絶好の撮影ポイントがあるということを鉄道写真マニアの友人から事前に聞いていたのかどうかは記憶にありませんが、写真に写っていたのはD51 159でした。第2部にある2019年7月27日に俱知安に降りた時、乗っていた列車の中から写真を撮った場所を探してみましたが、それらしき場所はわかりませんでした。

俱知安から乗車したのはC62 3が牽引する列車でした。私の記憶にある中で、初めて乗るSL牽引列車でした。この旅行に行く前に、その鉄道ファンからC62の音は物凄く迫力があり、心を打たれる音であることを何度も言われていたので、デッキに立って写真を撮ったり音を聞いたりしてみましたが、彼が言う程は感動しなかったような記憶があります。

1時間19分の乗車で余市に9時25分に到着しました。余市から積丹半島の途中まで往復する前に、余市駅前のニッカウイスキーの工場入口まで行きましたが、時間が無かったので工場見学には行けませんでした。

その後は積丹半島の海岸線の国道でヒッチハイクをし、積丹半島を北上しました。その

当時、北海道ではヒッチハイクする人が多かったので、手を上げると乗せてくれる車が結

<1973年7月13日>

○俱知安

| 8:06 発
| 函館本線(普通)[小樽行] 1時間 19分
| 9:25 着

○余市

積丹半島観光

○小樽

| 15:52 発
| 函館本線(急行)宗谷[稚内行] 33分
| 16:25 着

○札幌

函館本線ダイヤ

C62 � 牵引	137
俱 知 安	8:06
小 沢	8:19
銀 山	8:36
然 別	8:49
仁 木	9:18
余 市	9:25



函館本線のC62 3

(急行)宗谷

小 樽	15:52
南 小 樽	↓
小 樽 築 港	↓
朝 里	↓
銭 函	↓
手 稲	↓
琴 似	↓
桑 園	↓
札 幌	16:25



俱知安駅近くのD51 159

構ありました。何台かの車を乗り継ぎ、積丹半島の真ん中あたりにあるローソク岩のあたりで折り返して小樽まで戻ってきました。

小樽を 15 時 52 分発の昨日函館から俱知安まで乗ってきた急行「宗谷」に乗り、札幌には 16 時 25 分に到着しました。積丹半島でのヒッチハイクのため、余市から小樽までの間は函館本線に乗っておらず、この区間を乗るために北海道へ行ったことは第 2 部で書いています。

この日は 1972 年の札幌オリンピックで日本のジャンプ陣がメダルを独占した宮の森のスキージャンプ場の脇にあるユースホステルに宿泊しました。その当時、大きな話題になっていた札幌のゴムタイ



ヤ地下鉄にも乗りました。このユースホステルには 2 泊し、翌日(14 日)は時計台、北海道大学のポプラ並木、大通り公園などの市内観光をしました。

【1973 年 7 月 15 日(日)】

(3) 千歳線、日高本線、広尾線

札幌で 2 泊し、今日は襟裳岬を回つて帶広まで行きます。札幌を 7 時 40 分発の様似行き(急行)えりも 1 号に乗車しました。この急行は札幌から千歳線を経由し、苫小牧からは終点の様似まで日高本線を走ります。

日高本線は、苫小牧市の苫小牧から様似郡様似町の様似を結ぶ延長 146.5 km の路線です。日高本線は様似から襟裳岬を廻り、広尾で広尾線と繋がって襟裳岬を一周する路線となる計画でしたが、様似から広尾の間は未完成のままででした。そのため、様似から襟裳岬を回って広尾までは国鉄バスが運行していました。

<1973 年 7 月 15 日>

- 札幌
 - | 7:40 発
 - | 千歳線
 - | (急行)えりも 1 号[様似行] 1 時間 01 分
 - | 8:41 着
- 苫小牧
 - | 8:43 発
 - | 日高本線
 - | (急行)えりも 1 号[様似行] 2 時間 48 分
 - | 11:31 着
- 様似
 - | 11:40 発
 - | 国鉄バス 日勝線 1 時間 15 分
 - | 12:55 着
 - ◆ えりも岬
 - | 13:40 発
 - | 国鉄バス 日勝線 1 時間 17 分
 - | 14:57 着
- 広尾
 - | 15:40 発
 - | 広尾線
 - | (急行)大平原[帶広行] 1 時間 30 分
 - | 17:10 着
- 帶広

日高線他のダイヤ		
(急行) えりも 1号		
千 歳 線	札幌	7:40
	苗穂	↓
	上野幌	↓
	北広島	↓
	島松	↓
	恵庭	↓
	長都	↓
	千歳	8:18
	美々	↓
	植苗	↓
	沼ノ端	↓
	苦小牧	8:43
	勇払	↓
	浜厚真	↓
	浜田浦	↓
	鶴川	9:12
	汐見	↓
	富川	9:25
	日高門別	↓
	豊郷	↓
	清畠	↓
日 高 本 線	厚賀	9:51
	大狩部	↓
	節婦	↓
	新冠	↓
	静内	10:13
	東静内	↓
	春立	↓
	日高東別	↓
	日高三石	10:40
	蓬栄	↓
	本桐	↓
	荻伏	↓
	絵笛	↓
	浦河	11:11
	日高幌別	↓
	西様似	↓
	様似	11:31

(急行) えりも 1号は札幌から 3 時間 51 分走行し、11 時 31 分に様似に到着しました。この列車と接続する国鉄バスは 11 時 40 分に様似を出発します。列車で到着した旅客の大半が襟裳岬方面に行つたと思うのですが、何台のバスで運行したのかは記憶にありません。バスは満席のような状態だったとは思いますが、襟裳岬に 12 時 55 分に到着しました。バス停から少し歩いて襟裳岬の突端が見える展望台に行き、地球が丸いことを感じる太平洋の水平線を見ることができました。



その展望台で信じられないような出来事が起こりました。それは、展望台付近で太平洋を見ていた時のことだったと思いますが、近くにいた女性が中学時代の同級生だったのです。間違いないと思ったので声を掛けると、まさに同級生でした。彼女も夏休みの旅行で松山から友人と北海道旅行に来たとのことでした。偶然と言え、信じられないような出来事でした。

その後、えりも岬を 13 時 40 分発のバスで広尾線の広尾に向かいました。バスは襟裳岬の山が海に落ちる狭い平地を広尾を目指して走りますが、途中で黄金道路と呼ばれる道路を走りました。ここに金が埋まっている訳ではなく、道路建設に膨大な金額を要したことからついた名前のようにです。

バスは 14 時 57 分に広尾に到着し、ここで広尾線に乗り換え、広尾 15 時 40 分発の帯広行（急行）大平原に乗車しました。この当時は、広尾線の幸福と愛国がその名前から一大ブームになっていましたが、急行が両駅で停車しなかったせいか両駅の写真は全く残っていません。また、「愛の国から幸福へ」のイメージで爆発的に売れていた、

広尾線のダイヤ	
急行	大平原
広尾	15:40
新生	↓
野塚	↓
豊似	↓
石坂	↓
大樹	16:04
十勝東和	16:05
忠類	↓
上更別	↓
更別	↓
中札内	↓
幸福	↓
大正	↓
愛國	↓
北愛國	↓
依田	↓
帯広	17:10

「愛国から幸福までの硬券切符」をプラスティックケースに入れた土産品を買った記憶もあるのですが、今となってはどこにも見当たりません。その広尾線は1987年に廃線となり、この時に乗車したことは過去の記録となってしまいました。

帯広には17時10分に到着し、正確な場所は覚えていませんが帯広駅の近くにあった帯広ユースホステルに泊りました。帯広は夏とは言え暑さを感じることなく、ユースホステルから根室本線を走る列車を見ながら感じたことと言えば帯広市内のビルの屋上にはピアガーデンが無かったことです。



帯広 YH から見た貨物列車